

時代は変わっても変わることはない

手書きの効果

昨年の夏、ニスコに入会した保護者様とのお話から、私が感じたことをお話しさせていただけないでしょうか。

「書いて覚えなさい、と言ってもこどもは書こうとしないのです。ノートもぜんぜん減らないですし…。わたしたちがこどものころはとにかく書いたものですけどね…。こどもは『今はデジタルの時代』と言ってきかないのです…。」

同じことでお悩みの保護者様、いらっしゃいませんか？

今から30年以上前の小学校では、現在よりも学習内容はそれほど多くはありませんでした。では、30年前よりも多くのことを教えられている令和の子どもたちの方が高い学力を持つのか、というと一概にそうとはいえません。デジタル機器の急速な発達により、与えられ、獲得できる情報は格段に多くなっています。しかし、「その情報を蓄積すること」、「自分の頭で考え、判断する」とことは別であると思います。

アメリカのカリフォルニア大学とプリンストン大学が共同研究チームを立ち上げ、「ライティング（手書き）とタイピングでは、どちらの方がよりよい成績を残すのか」を比較する実験を行いました。結果はライティンググループの方が、良好な成績をおさめたというのです。しかも「ひらめく力」や「発想力」にも優れていたそうです。

それはなぜでしょうか。

令和と比べ、学習内容が多くなかった30年前、学校で演習する時間が授業の中で確保されていました。学校の授業の中で、ガリガリ手で書くのが当たり前だった時代、意図的に脳を活性化させていたわけではありません。自然に脳が活性化されていたのです。それで、宿題を出されなくても学校の授業の中で知識が「定着」していたのです。「手を動かして文字を書くことにより、脳が刺激を受け活性化された」からなのです。

ところが、デジタル機器の使用が中心になり、「手を動かして字を書く」機会が少なくなりました。そのため、保護者様がこどもの頃と比べると、脳を活性化しきれていないのではないかと私は思うのです。

先生の板書を必死になって写していた時代は遠い過去のものになりつつあります。ただし、私はただの懐古主義者ではありません。要は、「バランス」です。検索はデジタル機器に任せ、脳を活性化させるための手書き、演習の時間を別に確保すれば良いのです。

ニスコ進学スクールでは、英語のリスニングを除き授業の場でデジタル機器を使用することはありません。なぜなら、「手書きの重要性」を熟知しているからです。手を動かすことで脳を活性化し、将来、社会に出ても十分通用する力をつけさせたい、私はそう願ってやみません。手書きは古い手段ではありません。文明が誕生して以来、何千年の間培ってきた「手書きのDNA」で、脳を活性化させ「考えぬく力」「ひらめき」「発想」を磨いてみませんか？

ニスコ進学スクール平岡中央教室
小中谷 宏樹